

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●熊沢重文騎手がJRA通算1万5000回騎乗を達成

8月31日(土)の2回小倉11日・第1レースでメイショウゴウキに騎乗した熊沢重文騎手(栗東・フリー)は、この騎乗で史上14人目、現役では11人目となるJRA通算1万5000回騎乗を達成しました。

●松田国英調教師がJRA通算600勝を達成

9月1日(日)の2回新潟12日・第1レースではダノンロツツが1着となり、同馬を管理する松田国英調教師(栗東)は、史上92人目、現役では14人目となるJRA通算600勝(延べ4995頭目)を達成しました。

●各地で夏のリーディングジョッキーが決まる

9月1日(日)をもって2回新潟・2回小倉・2回札幌が終了しました。新潟ではこの開催で11勝をあげた戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)が、自身4回目となる夏の新潟競馬リーディングジョッキーに輝き、小倉では16勝の松山弘平騎手(栗東・フリー)が自身初となる夏の小倉競馬リーディングジョッキーの座を獲得。また1回札幌・2回札幌通算で26勝をマークしたクリストフ・フルメール騎手(栗東・フリー)が、2年ぶり3回目となる札幌競馬リーディングジョッキーに輝きました。

●サマー2000シリーズ、チャンピオンは該当馬なし

9月1日(日)に行われた新潟記念(GⅢ)で今年のサマー2000シリーズ全5戦が終了しました。ポイントランキングでは札幌記念(GⅡ)を制したブラストワンピースが12点でトップとなったものの、「13点以上」という同シリーズのチャンピオン決定条件は満たさず、今年のチャンピオンは該当馬なしとなりました。

●シゲルヒノクニとグレンツェントの競走馬登録抹消

2019年京都ハイジャンプ(J・GⅡ)の勝ち馬シゲルヒノクニ(牡7歳/美浦・粕谷昌央厩舎)は、8月28日(水)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績38戦2勝・地方1戦0勝で、今後は地方・佐賀競馬に移籍する予定です。2017年東海テレビ杯東海S(GⅡ)などの勝ち馬グレンツェント(牡6歳/美浦・加藤征弘厩舎)は、8月29日(木)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績18戦6勝・地方2戦0勝で、今後は地方競馬に移籍する予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●北海道のヨハネスボーイが札幌2歳S(札幌)で5着と健闘

札幌2歳S(GⅢ、8月31日、札幌)にクローバー賞2着で出走資格を得て参戦したヨハネスボーイ(北海道)は、6番手から差を詰めて直線入口では先頭を窺う勢いも、3着馬と同タイムの5着でした。

●岩手の村上忍騎手がゴールデンジョッキーC(園田)に優勝

9月4日に園田で全国から通算2000勝以上の騎手を集め、3レースのポイント制で争われたゴールデンジョッキーCは、岩手の村上忍騎手が優勝。JRAの戸崎圭太騎手は第7位、岩田康誠騎手は第8位、福永祐一騎手は第9位でした。

●セントライト記念(中山)に船橋のミュウチャリーが登録

セントライト記念(GⅡ、9月16日、中山、3着以内は菊花賞の優先出走)にミュウチャリー(船橋)が登録しました。父のパイロはダート向きの産駒が多く、初体験となる芝が鍵になりそうです。

●リリーC(門別)はプリモジョーカー【各地の主要2歳重賞】

リリーC(8月29日、門別、1200m、牝馬)は、逃げた4番人気のプリモジョーカー(父スズカコーズウェイ)が後続を3馬身引き離し、初の重賞制覇を果たしました。

●ヤマニンアンプリメらが出走、9月12日のオーバルスプリント

テレ玉杯オーバルスプリント(JpnⅢ、9月12日、浦和、1400m)は、重賞2連勝中のヤマニンアンプリメが中心、以下サクセスエナジー、ワイドファラオ、昨年の覇者ノブワイルド(浦和)、ノボバカラ、ブルドッグボス(浦和)までが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1ウッドワードS~プリザベーションистがG1初制覇

アメリカ・ニューヨーク州のサラトガ競馬場で8月31日に行われたG1ウッドワードS(3歳上、ダート1800m)は3、4番手の内ラチ沿いでレースを進めたプリザベーションист(牡6歳、父アーチ、J.ジャーキンス厩舎)が直線で馬群から抜け出して優勝。G1初制覇を果たしました。ハーツクライ産駒の日本産馬で、このレース連覇を狙ったヨシダは後方からよく追いつきましたが3着に終わっています。勝ったプリザベーションистは今年7月のG2サバーバンS(ダート2000m)で6歳にして重賞初挑戦初制覇。前走8月3日のG1ホイットニーSは逃げ粘れず4着に終わっていました。

●G1バーデン大賞~ガイヤースが14馬身差の圧勝

9月1日にドイツのバーデンバーデン競馬場で行われたG1バーデン大賞(3歳上、芝2400m)は逃げたガイヤース(牡4歳、父ドバウイ、英C.アップルビー厩舎)が14馬身差で圧勝。G1初制覇を果たしました。勝ったガイヤースは、一昨年10月のG3オータムS(芝1600m)、昨年9月のG3ブランスドラージュ賞(芝2000m)、そして今年4月7日のG2アルクール賞(芝2000m)と休み休み使われながら重賞3連勝。しかし、続く前走4月28日のG1ガネー賞はヴァルトガイストの3着に敗れていました。